



後記

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-07-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/7874

後 記

1991年度は1981年の情緒課程開設以来、11年をむかえましたが、開設当初より念願の特殊教育特別専攻科（情緒障害教育専攻）が、この1992年4月に設置されることとなりました。課程第二10年期の初頭を飾る意義深いことでもあります。これもひとえに惜しみない援助を与えてくださった旭川をはじめ、全道・全国の親・親の会、教育・福祉関係者、関係学校、施設機関からの、絶大なご協力の賜と衷心より厚く御礼申し上げます。

新しい特別専攻科の特徴は、養護学校教員の専修免許を昼夜授業と夏冬休み集中授業の受講によって1年間で取得できること、もう一つは、現職教員の職務に従事しながらも、夜間授業と夏冬休みの集中授業を受講することによって2年間で専修免許が取得できることです。

これまでの情緒障害教育教員養成課程（1年課程）は臨時課程でありながら、特別専攻科を想定した教育課程を組み、研究論文作成を必須科目とした密度の濃いものでした。新しい特別専攻科の教育課程はこれまでの伝統を引き継ぎながら、さらに登校拒否児、学習障害児など、現代の教育問題に対応できる科目の充実を図ることになりました。

さて、情緒障害教育研究紀要第11号には、酒木 保・駒井厚子両先生の不登校児の母親面接、長堀 登・木村健一郎両先生の学習障害児の実態調査、北山雅英先生の施設職員が学校教育に期待することの調査、高橋 渉先生の問題行動の肯定的受容を通してかかわった実践、肥後祥治先生の重症心身障害児者への行動療法による取り組み等を掲載することができました。ここに貴重な論文をお寄せいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

情緒障害教育教員養成課程第11期生12名、学内教官1名の論文を加え、合計18本の論文のうち、最初に不登校・学習障害・肥満など、もっとも現代的教育問題と思われる5編をまとめました。続いて自閉症・重症心身障害児教育に関する6編は、施設からみた学校教育、問題行動の受容、日記分析による成長記録、重症心身障害児の指導に関するものなどです。また、地域療育・交流教育・予後指導に関する6論文は障害児の乳幼児期から成人期以降へ縦の時間軸にそって並べ、最後に英文の登校拒否に関する論文を加えました。

常に新しい教育問題に取り組んだ「進取性」をもった最初の5編、続いてこれまでの障害児教育の実績をさらに深めた「着実性」をもった6編、乳幼児期から高齢期まで地域で取り組む「一貫性と地域性」の主張を後の6編から読み取ることができます。施設・学校・大学との共同研究がふえていることは、「連携協力性」が重視されていることの表れであり、これらは情緒障害教育研究紀要の1号から11号までに培われ成長してきた伝統のように思われます。

障害のある子どもたちの一生を展望した実践を求めて、現場に学び、地域に学び、連携協力の体制をつくりだすことが私どもの基本的姿勢です。これまで、旭川をはじめ道内全域、ときに全国にまたがった数え切れない多くの方々から、多大なご援助ご指導をいただきながら本課程は運営されてまいりました。新特別専攻科の発足を目前にして、教官一同、決意を新たに障害児教育の充実に取り組んでまいりたいと存じます。皆様の一層のご指導と、ご鞭撻をお願い申し上げます。

1992年3月7日

小田切 正
末岡 一伯
伊藤 則博
古川 宇一